



教育委員会より

「多久から発信！SDGs」
感謝と夢を伝える会

2月17日火曜日に、私達4年生は「感謝と夢を伝える会」を行いました。第一部では、たくさんの保護者の方、先生方、地域の方の前で証書の授与や誓いの言葉の発表などがありました。練習では、手にできていなかっただけで、本番では、大きな声ではきはぎと言えました。歌は、練習の時よりもしっかり口を開けて歌えたのでよかったです。

第二部では、「将来の夢」について一人ひとり発表しました。本番までにパソコンでスライドを作ったり、発表の練習をしたりして頑張りました。本番では、大きな声で気持ちを込めて発表することができました。家に帰ってからお母さんにほめてもらいました。家族にかっこいい姿を見せられたのでうれしかったです。いつもは、授業で発表することが苦手だったけれど、大きな声でみんなの前で言えたのでよかったです。これからも夢に向かって努力を続け、頑張っていきたいです。



4 質の高い教育をみんなに

東原彦舎中央校 4年1組
成富末結

連載

多久市の指定文化財 (13)

一 若宮八幡宮の三本杉

「多久市天然記念物」
多久町一八〇二番地(多久八幡神社)

若宮八幡宮(佐賀県重要文化財)が所在する多久八幡神社の境内に、3本並んだ杉の巨木があります。「佐賀県名木・古木」他書籍などによると、推定樹齢約720年、樹高は35m、幹周り5.2m、枝張り15mとされ、県内でも樹齢の古い杉の名木に数えられます。地元では「八幡さんの三本杉」と呼び1株から3本に分かれ、3本とも市内の杉で最大とみられます。江戸時代の多久領の地誌「丹邱邑誌」(多久市郷土資料館所蔵)にも記述がみられ、その説明では当時より100年前には根元脇に穴地蔵があつたが、株に巻き込まれて今はないと記されます。県内でも屈指の杉巨木として植物学上も貴重であり、昭和53年に市天然記念物に指定されました。神社西の西溪公園は、かつて女山室老(多久家家老)の屋敷地であり、そこにあつた「下総の松」も同書に巨木と記され、遠くからも見える目印として昭和頃まで存在しましたが、落雷のため倒れ今は切株だけが残ります。多久の歴史をみつめる大樹を大切にしたいと考えます。(教育振興課)



▶ 若宮八幡宮の三本杉



▶ 多久八幡神社と三本杉

市民文芸

短歌 《麦の芽短歌会 互選》

- ◆ 親切が作る優しさ温もりが
いつも私を支えてくれる
野崎 隆幸
- ◆ 日を追うて素足の温もり増してくる
夜更かしの我にしをびくる春
尾形 節子
- ◆ 桜餅ひとつを食めばほのぼのと
ひいなど共に香き日の頭つ
川浪 信子
- ◆ 散策のわれを和ます 石路の
黄の輝きが道照らしおり
梶原恵美子
- ◆ 牛津川改修亡父の悲願なりき
水害の無き地域となりぬ
浦野 嘉恵

俳句 《大石ひろ女選》

- ◆ 久々に足の弾める春日和
本村 則子
- ◆ 春めくや風のにほひの入れ替はり
富樫 明美
- ◆ ささらぎや県道工事始まりて
大谷 和
- ◆ 野に出れば行く先に草萌て
武富 律子
- ◆ やはらかき日差しの中の白磁甎
大石ひろ女

川柳 《多久川柳会 互選》

- ◆ スタートに張り切りすぎて五月病
松下 修
- ◆ 風も食った土も食ったウオーキング
小副川ヨシエ
- ◆ 名刺などいらぬ職場で生きている
高塚ちかこ
- ◆ 天国へ出発するにはまだ早い
田中 正春
- ◆ 配った名刺ほどに成果のないノルマ
田代まつこ